

◇令和2年／2020年5月号 第96号◇

会 産経国際書会 報



フジサンケイグループ

SANKEI INTERNATIONAL SHO ASSOCIATION



「風月同天」 揮毫＝風岡五城理事長

新型コロナウイルスが中国で拡大した2月初旬、日本からの支援物資に「山川異域 風月同天」の詩が添えられていました。山河の異なる異国に住んでいても、風月は同じで天はつながっている、転じて同じ苦境の中でも心はつながっている、世界的な困難にともに向き合い頑張ろうというメッセージが話題になりました。出典は鑑真の伝記「唐大和上東征伝」。天武天皇の孫、長屋王から献納された1,000着の袈裟に縫い付けられていたとされる漢詩の一節で、この詩に鑑真和上が心を動かされ、仏縁のある国と感じ、来日を決意したと伝わります。



産経新聞社
代表取締役社長
飯塚 浩彦

心をひとつに

「令和」も2年目を迎えましたが、中国・武漢で発生し、世界中に広がった新型コロナウイルスが世界中で猛威を振るい、会員の皆様をはじめ書道界にも大きな影響を及ぼしております。

4月に入ると緊急事態宣言が発令され、書道界でも数多くの展覧会が中止や延期になっています。不要不急の外出自粛など国民の社会生活にも大きな影響を及ぼすだけに、一刻も早い収束を祈らざるを得ません。

そのような状況の中、産経国際書会は産経新聞社とも協議し、新型コロナウイルスへの十分な対策を取ることで、現時点(4月13日)では予定通りに第37回産経国際書展の開催準備を進めることといたしました。会員の先生方からも様々なご意見を頂き、ともにこの難局を乗り越え、書道を通じて社会を励ましたいと考えての判断です。

当初、東京都美術館での書展は2020東京五輪の会期と重なる予定でした。この機会に国内だけでなく海外から来られる多くの皆様にもぜひ書道文化を楽しんでいただきたいと思いますと考えておりましたが、ご存じのように東京五輪は1年延期となりました。

産経国際書会では、この難局の中、引き続き会員の皆様と新聞社が心を一つにして、さらなる発展に向けて取り組んで参ります。

皆様も外出の自粛や3つの「密」に注意され、元気で活躍されます事を心よりお祈り申し上げます。



産経国際書会
理事長
風岡 五城

この難局を乗り越えよう

新型コロナウイルス感染の猛威が世界中に広がり、我が国においても4月7日には東京をはじめ7都府県に緊急事態宣言が発出される事態になりました。こうした状況の中で第37回産経国際書展が本当に開催できるのか、その前の審査が可能かどうかなど大いに憂慮されるところですが、場合によっては審査方法の変更をも視野に入れながら、現時点では可能性がゼロでない限り開催に向けて準備を続けていきたいと思っています。この会報がお手元に届く頃に審査が予定されていますが、状況がどうなっているか見当が付きません。東京での感染拡大は、人と人との接触を80%抑えることができれば終息に向かうと研究者は予測を立てています。今は只そうなることを祈るばかりです。

4月16日に予定されていた総会は中止となりました。議題の内容は今会報にてお知らせの通りです。しかし事業計画、予算等においては状況によって変更を迫られることが考えられます。よろしくご理解、ご協力いただきますようお願いいたします。

外出自粛の日々ですが、幸いに書は自宅でも一人でも出来ます。家に籠ることを前向きにとらえてこの難局を乗り越えようではありませんか。皆様一人ひとりのご自愛を祈ります。

令和 2 年 産経国際書会総会

4月16日、東京千代田区の手町サンケイプラザで行う予定の産経国際書会第35期通常総会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりました。

本総会は出席者45人、委任状提出者1,101人、あわせて1,146人にて実施する予定でした。総会が開催されれば議決が成立する全会員数の3分の1を上回っておりました(令和2年3月1日現在在籍の会員1,630人、その1/3は544人)。

総会資料は、理事長、理事長代行、副理事長がメンバーとなっている書会執行部である総括会議により承認されたもので、全会員に郵送いたしました。

会報では、総会資料をまとめたものを掲出いたします。

第 35 期 事業報告

◆第36回産経国際書展

審査日 令和元年5月28日(火)～5月31日(金)

会場 シアター1010ギャラリー(東京・北千住駅マルイ11F)

会期 7月27日(土)～8月3日(土)

会場 東京都美術館 ロビー階及び1階第1、2、3、4展示室

作品数 6,157点 入場者5,564人

贈賞式・祝賀会 7月31日(水)明治記念館

【イベント】揮毫会：27日(土)

高田宮賞の渡邊麗理事長代行、内閣総理大臣賞の田村政晴常任顧問の2人が実施。岩村恵雲常務理事の進行で、今回は東京都美術館の企画(文化芸術体験交流プログラム)とコラボし、揮毫会の内容を外国人の来場者向けに英語通訳を行った。来場した外国人は多くはなかったが、英語の説明があることで書道に対する理解が深まり、良かったとの感想が多数寄せられたとの報告を美術館担当者から受けた。こちらの対応は高木撫松先生にお願いした。

ギャラリートーク：31日(水)

勝田晃拓副理事長の進行により、高田宮賞の渡邊麗理事長代行、内閣総理大臣賞の田村政晴常任顧問、中国大使館文化部賞の伊東玲翠常

務理事、韓国文化院長賞の赤堀翠柳常務理事、会長賞の鈴木暁昇さん、倉賀野静子さん、大田美州さん、理事長賞の和田玲砂さん、国際大賞の平野恵亮さんが自作を解説。
※各回200人強が集まって熱心に見ていた。

◎27日(土)10時30分からテーブルカット、飯塚浩彦社長、田中鳳柳最高顧問、村越龍川最高顧問、伊藤欣石副会長、風岡五城理事長の5人が参加。

※すべてイベントの企画、運営は企画部(東京)が行った。

【特別展】①特別色紙展＝御題「徳」と「雅」、77点。

②「書」でつなぐ世界と日本＝12か国14点(昨年16か国19点)

中国、インドネシア、イスラエル、イタリア、モンゴル、ミャンマー、オランダ、ナイジェリア、ノルウェー、スリランカ、トルコ、ベトナム

③特別展示＝韓国招待作家 4人
權寅鎬(グォンインホ)、姜大熙(ガンデヒ)、金榮基(キムヨンギ)、李鍾宣(イジョンソン)

④特別展示＝芸能人、文化人の書 4人

中山秀征、松村雄基、藤田三保子、岡部まり

◆2019産経ジュニア書道コンクール

会 期 令和元年 7月27日(土)～8月3日(土)
 会 場 東京都美術館 2階第4展示室
 作 品 数 9,545点 入場者数 4,266人
 贈 賞 式 7月28日(日)東京都美術館講堂
 揮 毫 会 特別賞受賞者18人が参加し贈賞式会場(講堂)で実施

◆2019産経国際書会 夏期研修会

会 期 令和元年 8月17日(土)、18日(日)
 会 場 大手町サンケイプラザ4Fホール
 参 加 17日=147人、18日=140人(両日ともは113人)
 内 容 17日=楷書「九成宮」高橋照弘副理事長、
 隸書「曹全碑」青陽如雲常任顧問
 18日=行書「蘭亭序」松崎龍翠副理事長、
 草書「書譜」風岡五城理事長

◆第36回産経国際書展 東北展

会 期 令和元年 8月30日(金)～9月4日(水)
 会 場 仙台市・せんだいメディアテークギャラリー
 ー5階
 作 品 数 211点 入場者数 約1,500人
 贈 賞 式 8月31日(土)ホテルメトロポリタン仙台
 講 演 田村政晴常任顧問 「書と人生」(贈賞式にて)

◆2019産経国際書会 研修会in大阪

会 期 令和元年 9月15日(日)
 会 場 ブリーゼプラザ7F小ホール
 参 加 15日=113人
 内 容 楷書「九成宮」高橋照弘副理事長、
 行書「蘭亭序」風岡五城 理事長
 書写技能検定について 町山一祥常務理事
 書写技能検定合格のポイント 今口鷲外常
 任顧問

◆第36回産経国際書展 瀬戸内展

会 期 令和元年 9月24日(火)～29日(日)
 会 場 広島市・広島県立美術館
 作 品 数 317点 入場者数 約2,000人
 贈 賞 式 9月28日(土)広島ガーデンパレス
 作品解説 大庭清峰実行委員長(常務理事)の進行で瀬戸内展特別賞受賞者による自作解説が行われた(28日午前10時から美術館にて)。

◆第36回産経国際書展 中部展

会 期 令和元年11月12日(火)～11月17日(日)
 会 場 愛知県美術館ギャラリー
 作 品 数 383点 入場者数 約2,000人
 贈 賞 式 11月16日(土)キャッスルプラザ
 作品解説 赤堀翠柳常務理事ほか受賞者(16日午後3時半から展覧会場にて)

◆第36回産経国際書展 関西展

会 期 令和元年11月26日(火)～12月1日(日)
 会 場 大阪市立美術館
 作 品 数 438点 入場者数 約2,000人
 贈 賞 式 12月1日(日)都シティ大阪天王寺

◆令和元年度理事会

会 期 令和元年12月3日(火)
 会 場 大手町サンケイプラザ311・312号室
 参 加 出席者55人 委任状提出者100人 合計155
 /189人(82.0%)

◆第36回産経国際書展 新春展

大作下見検討会 令和元年 9月19日(木) 国立新美術館
 地下1階審査室
 II(公募)審査 令和元年12月6日(金) 国立新美術館
 地下1階審査室
 会 期 令和2年1月22日(水)～2月3日(月)
 会 場 国立新美術館
 作 品 数 780点 入場者4,811人
 ギャラリートーク 1月30日(木)午後2時～3時
 渡邊麗理事長代行、武富明子副理事長、諸留
 大穹専管理事、渡辺龍泉評議員、山沖春闌
 (審査会員)さん
 大作出品者 渡辺龍泉評議員、清水哇花(審査会員)さん、
 山沖春闌(審査会員)さん、山田祥葉(審査会
 員)さんの4人
 贈賞式・祝賀会 1月30日(木)午後4時～6時 明治記念館

第36期 事業計画

◆第37回産経国際書展 審査会

会 期 令和2年5月26日(火)～5月29日(金)

会 場 シアター1010ギャラリー
※5月25日(月)は作品搬入

◆2020ジュニア書道コンクール 審査会

会 期 令和2年6月17日(水)※18日(木)に作品整理
会 場 東京都美術館 地下3階第4作業室B、審査室A・B

◆第37回産経国際書展

会 期 令和2年7月27日(月)～8月2日(日)
※展示替えは30日(木)
会 場 東京都美術館 ロビー階、1階第1室～第4室(計8室)
贈賞式・祝賀会 7月29日(水)大手町サンケイプラザ
4階ホール 午後2時～

◆2020ジュニア書道コンクール

会 期 令和2年7月27日(月)～8月2日(日)
※展示替えは30日(木)
会 場 東京都美術館 2階第4室
贈賞式 7月31日(金)東京都美術館講堂 午前11時～

◆2020年夏期研修会

会 期 令和2年8月15日(土)、16日(日)
会 場 大手町サンケイプラザ
内 容 臨書を学ぶ

◆第37回産経国際書展 東北展

会 期 令和2年9月11日(金)～9月16日(水)
会 場 せんだいメディアテーク
贈賞式 9月13日(日)ホテルメトロポリタン仙台 午後3時～

◆第37回産経国際書展 瀬戸内展

会 期 令和2年9月29日(火)～10月4日(日)
会 場 広島県立美術館
贈賞式 10月3日(土)広島ガーデンパレス 午後2時～

◆第37回産経国際書展 中部展

会 期 令和2年11月3日(火・祝)～11月8日(日)
会 場 愛知県美術館ギャラリー
贈賞式 11月8日(日)キャッスルプラザ 午後12時～

◆第37回産経国際書展 関西展

会 期 令和2年11月25日(水)～11月29日(日)
会 場 大阪市立美術館
贈賞式 11月29日(日)都シティ大阪天王寺 午後12時30分～

◆令和2年度理事会

会 期 令和2年12月1日(火) 午後2時～
会 場 大手町サンケイプラザ311・312号室

◆第37回産経国際書展 新春展

会 期 令和3年1月20日(水)～2月1日(月)
会 場 国立新美術館
贈賞式・祝賀会 1月28日(木)明治記念館 午後4時～

第35期 決算と第36期 予算

税別

区分	第35期		第36期
収入	予算		予算
	会費収入等	87,090,909	88,500,000
支出	事業費	15,145,455	17,000,000
	国際書展出品料	31,681,818	32,181,818
	その他運営費等	40,263,636	39,318,182

会費収入

(単位:円)税別

区分	第35期決算	第36期予算
審査会員	54,983,000	51,000,000
無鑑査会員	21,568,000	23,000,000
会友	18,855,000	14,000,000
計	95,406,000	88,000,000

出品料

(単位:円)税別

区分	第35期決算	第36期予算
審査会員(3万円)	17,318,182	17,318,182
無鑑査会員(2万円)	8,490,909	8,363,636
会友(1.3万円)	6,050,909	6,500,000
計	31,860,000	32,181,818

第35期 産経国際書会役員

2020.4～ ○=新任(敬称略 50音順)

【会 長】	飯塚 浩彦						
【最高顧問】	齋藤 香坡	佐々木月花	田中 鳳柳	村越 龍川			
【会長代行】	伊藤 富博						
【名誉顧問】	生田 博子	石川 天瓦	竹澤 玉鈴	手島 泰六	○納谷 古石		
	平方 峰壽	本多 道子	山下 海堂				
【常任顧問】	今口 鷺外	岩下 鳳堂	岩田 正直	上野 鶴陽	佐藤 志雲		
	島村 谿堂	青陽 如雲	田村 政晴	原田 圭泉	松本 美娜		
	宮崎 春華						
【顧 問】	五十嵐光子	小名 雪王	加藤 深流	白崎 菖汀	樽谷 龍風		
	橋本 旭石	三上 錦水	○望月 曉云	森井 翠鳳			
【客員顧問】	齊藤 華秀	○晋 鷗	高畑 常信	武田 厚	竹中 幸生		
	趙 白鶴	平方 研水	劉 洪友				
【参 与】	岡 美知子	木村 春峰	久保 翠雪	須藤 松閑	夏堀 竹翠		
【理 事 長】	風岡 五城						
【理事長代行】	坂本 香心	渡邊 麗					
【副理事長】	今田 篤洞	岩浅 写心	勝田 晃拓	金丸 鬼山	高木 撫松		
	高頭 子翠	高橋 照弘	武富 明子	正川 子葉	松井 玲月		
	松崎 龍翠	村田 白葉					
【専務理事兼事務局長】	糸 雅人						
【事務局次長】	○山口 邦泰						
【常務理事】	○青木 錦舟	赤堀 翠柳	浅香 秀子	石川 陽竹	泉 芳秋		
	磯邊 哲舟	伊藤 春魁	伊東 玲翠	今井 翠泉	岩田 蕙雨		
	岩村 恵雲	上村 陽香	江戸 秀虹	遠藤 乾翠	大庭 清峰		
	大橋 玉樹	岡本 杏華	小川 艸岑	小名 雪揺	小野 亭良		
	織茂 香葉	貝瀬 芳雨	鎌田悠紀子	黒田 浩芳	小杉 修史		
	○後藤 教子	○斎藤 秀翠	五月女紫映	眞田 朱燕	澤田 香墨		
	鈴木 青苑	鈴木 祐洞	世木田江山	多田 游硯	建部 恭子		
	戸叶 幽翠	長尾 佳風	永田 龍石	中野 和博	○中村 雪鷺		
	西尾 秀誠	○西川 万里	野崎 俊江	人見 恵風	堀江 宣久		
	町山 一祥	山本 晴城	吉田 永欽	吉野 富龍	渡邊 祥華		
	○渡部美恵子						
【専管理事】	青柳 光草	安蒜 欣青	生田 佳葉	石井 理春	遠藤 香葉		
	遠藤 有翠	老川 揺舟	奥村 桃曄	小野澤美香	梶原 碧川		
	加藤 香誓	鴨田 茜竹	菊山 武士	木住野 栄	北川 佳邑		
	北野 香春	木村 大澤	○小泉 玲洸	小林 紫雲	近藤 豊泉		
	佐藤 志陽	篠原 秀朋	莊司 欣水	○菅原 有恒	○杉原 静花		
	鈴木 愚山	鈴木 博子	鈴木 蓉春	○武 翠泉	竹内 美翠		
	○田島 青谷	橘 圭子	○鶴田 秀紅	富田 静流	中井 庭峰		

【理事】	中野 桂月	西尾 蘭畦	芳賀 祥緑	羽根田和香	林 龍成
	久田 方琥	菱沼 東坡	眞々田壽扇	三橋 和泉	諸留 大穹
	石井 思水	伊藤 牙城	今井 軒石	岩田 和道	上田 智子
	梅内 春藍	梅原 凜溪	及川 扇翠	大川 詢子	大澤 芳洲
	大田 桂水	大段 栄泉	大場 映翠	大八木雅山	岡野 蒼生
	岡村 公裕	○刑部 翠風	○小名 玉花	小野 左鷺	恩田 瑞貞
	影山 瑤琴	梶谷 綾泉	加柴 律子	加藤 竹藜	加藤 芳珠
	川井 恵風	久米 麗鳳	小杉 秀花	小林 千津	小宮 求茜
	斎藤 修竹	酒井 竹風	佐武 照聲	鐘 旭孫	沈 彊
	○鈴木 暁昇	○鈴木 蒼	鈴木 葉光	諏訪 春蘭	関根 史山
	関根 春峰	瀬戸 桂舟	高野 彩雲	○高橋 峰月	高橋 峰雪
	田中 龍渕	○谷 蒼涯	玉木 白雲	玉田 子翠	田村 恵子
	辻 和雲	長瀬 沙焱	中塚 龍華	○中平 博子	長谷川明扇
	平岡 雄峰	平本 一恵	古谷 華楓	○前田 聖峰	松岡 輝峰
	松岡 篁月	松岡 舟波	宮川 彪子	三宅 秀紅	宮平 翠玲
	○村越 弘鷹	村瀬 敢山	室伏 雅籥	本橋 春景	山下 翠風
	山田 華萌	山田 秀園	山村 鳳羽	横溝 景陽	吉本 麗竹
	ラモス逸子	陸 氓卿	○和田 玲砂		
	○岩間 桃香	○林 清方			
【監事】 【評議員】	阿久津由美	有友 啓扇	飯田恵美子	井形 大正	石井 政子
	石川 杏華	石川 溪舟	石川 秀苑	石川 由美	石黒 鴻羽
	植田 泰之	黄木 孝一	大木 翠晃	○大田 美州	大谷 芳雨
	大久 恵華	○岡崎 洋翠	○小笠原素心	岡林 御舟	荻野 侑邨
	小谷 翠谷	梶井 香龍	加藤 桂谷	加藤 松亭	加藤 石泉
	加藤 遊墨	カレン紅鸞	○河口 美櫻	河原畑静揚	木谷 峰水
	熊切 溪石	○倉賀野静子	小久保里子	小嶋カズ子	小関 麗翠
	五戸 光岳	今野 美晃	○齋藤 欣江	○齊藤 春欣	定野 桂雪
	里 芳倫	佐藤マス子	澤村 春泉	篠原 寒鵬	柴山 枝峯
	清水 小舟	菅井 裳雲	鈴木 邦仙	高田 華光	高野 撫雪
	高橋 翠石	橘 黄華	田端 香峰	塚原 桃虹	津久井桂葉
	土田 芳水	銅山 桂銅	中川 なほみ	中島 雪遥	中島 貞鵬
	永田 昌子	○中西 美蕙	中村 蘭香	○野尻 春華	波多野久美
	羽根田菖風	早坂 喜伊	林 弘子	原田 統玄	○平野 恵亮
	藤井 峯子	藤村 満恵	布施 夏翠	降幡 加津	古谷 紫水
	堀川 梨華	町田 昌畦	町田 武山	松岡 静仙	松戸 清玲
	松永 光鳳	水原 白姚	三谷 旭心	蓑口 草川	宮崎 礼子
	森 紀生	森田 香深	盛田 理泉	矢崎 藤香	山口 了世
	山崎 玉松	山田 娃泉	山本てるみ	横田 玉華	米山 石峯
	我妻 信子	渡辺 敦子	渡邊 正峰	渡邊 麻衣子	渡辺 龍泉

第 37 回 産経国際書展 実行委員長からひとこと

コロナに負けずに

連日テレビはどのチャンネルを回しても新型コロナウイルスの話題ばかりで、オリンピックも延期。学生も自宅待機で、あらゆる催しも中止または延期と何ともやり切れない気持ちの毎日です。

オリンピックとパラリンピックは別にして第37回展は粛々と準備万端整えております。いつもより多くの、そして立派な作品が集まることを願っております。もっともこの会報が皆様のお手許に届くのは審査直前なのでチト遅いか・・・

企画部では昨年からいろいろ研究して外国の人むけのワークショップを計画しました。コロナで外国人が少なくとも出品者や邦人の来場者と楽しく過ごして良い思い出作りになるようにしたいと思います。また、私に時間がある時は、文房四宝や印泥の困りごとの相談も受け付けます。

こんな時です、努めて明るい展覧会にしましょう。ご協力をお願い申し上げます。



岩浅写心実行委員長

第 37 回 産経国際書展 審査員

●特別選考委員

石川天瓦、風岡五城、笠嶋忠幸、齋藤香坡、酒井孝太郎、晋鷗、竹澤玉鈴、田中鳳柳、手島泰六、富田淳、原田圭泉、平方峰壽、村越龍川、山下海堂、吉野毅

●漢字

愛澤奏剣、泉芳秋、大庭清峰、勝田晃拓、金丸鬼山、川上恵苑、坂本香心、鈴木暁昇、高木撫松、長尾佳風、永田龍石、平岡雄峰、前田聖峰、三宅秀紅、山本晴城

●かな

伊藤春魁、今口鷺外、加藤芳珠、齊藤春欣、武富明子

●現代書

生田佳葉、遠藤香葉、大橋玉樹、加柴律子、小嶋カズ子、諏訪春蘭、高橋照弘、高橋雄喜、中西美恵、山田秀園、渡邊麻衣子

●篆刻・刻字

風岡五城、五月女紫映、陸氓卿

●臨書

今田篤洞、中村雪鷺、松井玲月、松崎龍翠、望月暁云

●U23

大谷煌水、岩下鳳堂、鎌田悠紀子、高頭子翠、渡邊麗

※第37回産経国際書展審査会は中止・延期となりました。本展審査員は来年度第38回展の審査員にそのまま委嘱予定です。

第 37 回 産経国際書展実行委員会

●実行委員長

岩浅写心

●審査部

本部長

村田白葉

漢字部

部長

今井翠泉

副部長

吉野富龍

委員

石川晴空、恩田瑞貞、武翠泉、本橋春景、宮川彪子、横溝景陽

かな、篆刻・刻字、臨書部

部長

浅香秀子

副部長

北野香春

委員

関根春峰、土田芳水、平岡智子、松岡篁月

現代書部

部長

西川万里

副部長

長岡輝美

委員

進藤栄峰、菅井裳雲、十亀紫風、早坂喜伊、平本一恵、我妻信子

●搬出部

顧問

青陽如雲

部長

磯邊哲舟

副部長

伊東玲翠

委員

今井軒石、梶谷綾泉、神谷映水、小杉秀花、櫻田恵香、佐藤マス子、塚原桃虹、飛世彩水、村山蛭泉、矢野春潮

●陳列部

顧問

岩浅写心、勝田晃拓

部長

山本晴城

副部長

渡邊祥華

委員

阿久津由美、安蒜欣青、泉芳秋、伊藤春魁、老川揺舟、大場映翠、岡村公裕、加藤松亭、五戸光岳、鈴木蓉春、関根史山、中野和博、和田玲砂

●図録部

部長

今田篤洞

副部長

岩村恵雲

委員

青木錦舟、大久恵華、河原畑静揚、久米麗鳳、近藤豊泉、高橋峰月、武翠泉、中村蘭香

●東京部会

部長

武富明子

副部長

黒田浩芳

委員

岩間桃香、久米麗鳳、近藤豊泉、平本一恵、山下翠風

●東北展

顧問

本多道子、田村政晴

実行委員長

松崎龍翠

事務局長

建部恭子

実行委員

大橋玉樹、小嶋カズ子、五戸光岳、田村恵子、芳賀祥緑、宮崎礼子、森紀生、渡部美恵子、渡辺龍泉

●瀬戸内展

顧問

宮崎春華、森井翠鳳、世木田江山

実行委員長

大庭清峰

副実行委員長

上村陽香

実行委員

大田桂水、吉本麗竹、石井思水、平岡雄峰、大段栄泉、松岡舟波、三宅秀紅、鈴木蒼、圓田翠泉、田中春畝、曾根小徑、田中吴峰、美之口琴晴

●中部展

顧問

村越龍川、風岡五城

実行委員長

村田白葉

副実行委員長

勝田晃拓、山本晴城、渡邊祥華

実行委員

赤堀翠柳、磯邊哲舟、伊藤春魁、老川揺舟、大場映翠、岡本杏華、刑部翠鳳、菊山武士、木村大澤、小泉玲洸、佐武照聲、田中龍淵、松岡輝峰、村越弘鷹、村瀬敢山、吉田永欽、和田玲砂

●関西展

顧問

平方峰壽、今口鷺外、樽谷龍風

実行委員長

松井玲月

副実行委員長

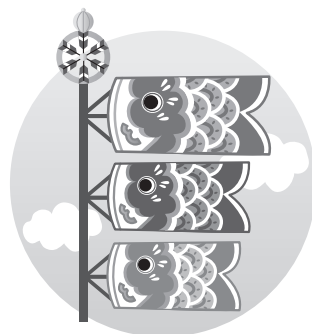
正川子葉

実行委員

小野亭良、長尾佳風、中村雪鷺、久田方琥、西尾蘭畦、篠原秀朋、生田佳葉、竹内美翠、山田秀園、山田娃泉

第 36 期 産経国際書会運営委員

- 総務部 担当 理事長代行 坂本香心
 部長 浅香秀子
 委員 戸叶幽翠、人見恵風、鈴木博子
- 会報・広報部 担当 副理事長 高頭子翠
 部長 小川艸岑
 委員 影山瑤琴、早坂喜伊、渡邊麻衣子
- 企画部 担当 副理事長 金丸鬼山
 部長 岩村恵雲
 委員 恩田瑞貞、北野香春、大久恵華
- 研修部 担当 副理事長 勝田晃拓
 部長 五月女紫映
 委員 木住野栄、永田龍石、松岡篁月
- 教育部
 (ジュニア育成) 担当 副理事長 高橋照弘
 部長 眞田朱燕
 委員 生田佳葉、小池雅游、高野彩雲、星野葉柳、前田恵泉、宮平翠玲
- 渉外部 担当 副理事長 高木撫松
 部長 鎌田悠紀子
 委員 人見恵風、遠藤香葉、早坂喜伊
- 会員増加企画(東京) 担当 理事長代行 坂本香心、渡邊麗
- 会員増加企画(大阪) 担当 副理事長 正川子葉、松井玲月



新しく審査会員になられた方

荒井裕水	宇野淳風	大井香簾	大毛青舟	大場清美	梶野花風	川野美鳳	倉知夕鷺	小谷美奈子
小林虹草	作村光雪	作村光風	笹岡茜詠	佐野香翠	須山馨扇	関口 尚	坪石孝子	程 中
鳥井春翠	中西 儼	萩原彰子	晴山竹芳	船木閑清	古田蘭継	堀川雲峰	増田孝志	三井田竹翠
三井紀子	向井恵風	吉田太城	良元鷺栖	綿貫彩風	綿貫勝一			

新しく無鑑査になられた方

秋山峻一	安住美弥子	新井暁香	栗屋俊堂	五十嵐梢	井口邦子	諫山蘭雲	伊澤久子	石綿葉翠
泉 鳩邨	泉 子鳳	市村翠祥	伊藤恵翠	伊藤晃泉	伊藤深山	井上空咲	猪浦明翠	岩崎清楓
内田子鴻	恵美奈志雅	大賀陽子	太田禮香	大塚美雪	大友伸秋	大友博子	岡田禎浄	小川香翔
小川熊峰	奥川光華	奥村佳子	加藤玉華	加藤葉月	金木杏花	苺米紀子	川口志満子	川口美窓
菅野汀泉	木下芳珠	倉岡さおり	黒澤光照	桑 敏之	河野 緑	小玉溪泉	後藤碩鳳	小林 郁
小森彩仙	小陽孝浩	今野榮園	斉木妍樹	齊藤典子	酒井春蘭	坂井礼子	佐藤和夫	佐藤静華
佐藤津香	鹿屋真由美	島田貴春	嶋田清亭	志村幸子	姿 光柳	杉沢慧華	鈴木穂苑	鈴木栖城
スタジオヘルベルト	曾雌如蘭	園田桃香	高田明仙	高野小百合	滝口一華	武田元崇	田中春水	田中眞由美
玉川清紅	千葉瑞苑	千葉道子	土屋秀堂	坪井駿泉	寺坂青畝	土井保江	都丸廣仙	富田芳金
中畦峰月	中島啾鳳	中部紫苑	西 晶麗	西河時枝	西口美津枝	野口映光	野坂みい	浜島圭園
林 清夏	林 帛甫	原 黄馨	原 幽月	伴田顯道	福島白苑	藤巻華志	前田瑞季	増田峰花
松井遊舟	松本岳山	丸橋都風	美之口琴晴	三宅和晃	村岡千壽	村瀬蕙風	山内雅鳳	山岸慧芳
山地暁翠	山田凌泉	山吹英夫	山本栖峰	吉川吟流	李 若娜	渡部大望	渡邊洋子	

新しく会友になられた方

相羽早知子	安慶名あさみ	新井華峰	荒木 幸	有賀瑚風	生原凜々子	石坂閑石	一柳庭華	伊藤白蓮
猪俣修韻	岩井玲翠	岩倉瑞季	岩本京子	植田 拳	上田秀曠	浦野博夫	遠藤玉扇	大河原紫舟
大里万亀子	大澤青溪	奥田煌苑	尾上琴舟	片山彩幽	加藤銚洲	加藤芳丘	角江政則	神谷洋子
川淵吏子	神田紅凜	岸 白露	北河光春	木全操子	木村北斗	工藤妙華	小泉令月	小林恭子
小林露風	小堀 望	櫻井芳苑	佐藤優翔	佐俣祥苑	島田千速	城前玉香	白板玉彩	鈴木 陽
鈴木繁子	鈴木知夏	鈴木裕子	須永清蘭	關口天恵	ゼーブル美鈴	多賀光華	高比良和瑛	高部俊暉
武笠彩樹	田中響扇	田中香風	谷川紅潤	津川えりか	筒井保子	樋田美風	当間旺風	中村尚華
中村百合子	仲村レナ	奈良抹羽	西 芳葉	野呂紅耀	羽鳥紅翔	羽根田皋菖	濱野蒼枝	東浦幸平
日向野翠篁	藤島果那	藤原彩園	プラウツ京美	前田慧花	増山洋蘭	増田恵実子	松江みち子	万田妹華
三井里枝子	村瀬治雄	望月和光	森井爽生	山口翠婉	山口千代子	山崎佳秀	山田達之	横田香藍
吉田和子	吉田冬花	吉原輝舟	米津洋子	連由貴子	渡邊溪芳	渡部香茜	渡邊美恵子	和根崎真美

第 36 回 産経国際書展 新春展

新春展をふりかえって

実行委員長 岩浅写心

第36回新春展は飯塚浩彦産経新聞社社長と風岡五城理事長、それに石川天瓦、竹澤玉鈴、山下海堂の名誉顧問のテープカットで始まりました。

今展初日の観覧者数は例年より多く賑やかに感じたが、これは奈辺にあるのか研究したいと思っています。展覧とは広辞苑によると「物品や作品を並べて見ること」と出ています。展覧会はややもすると審査やその結果としての賞云々に関心が強くなっているのが現状です。

新春展はその点、Ⅱ以外は無審査なので各自が思い通りの作品を発表できるので、ぜひ全役員に参加してもらいたいと思います。出品数は昨年の約9割と非常に残念でありましたが、作品からは他展には見えない自由な作風が熱く伝わり、未来性を感じさせます。

但し、辛口評をすると創作の基本の勉強不足と、最も気になるのは篆書を扱う人の字書の使い方、字義の調べ方、字形の選び方等で、一番基本となる事の学習の必要性を感じました。



テープカット



賑わう大作会場



代表展展示風景



新春展Ⅱ展示風景



迫力の大作



わかりやすく作品解説をする渡邊麗理事長代行



ギャラリートークに集まる

第36回産経国際書展新春展は1月22日(水)から2月3日(月)までの12日間、東京・六本木の国立新美術館で開催され、入場者は4,811人でした。

34回目となる「代表展」は201点を展示、審査会員・無鑑査会員が出品する新春展Ⅰは、179点が出品されました。会友と、一般を対象とした公募部門である新春展Ⅱには400点の力作が寄せられ、会友奨励賞6点、産経新聞社賞5点、奨励賞27点が受賞の栄誉に輝きました。なお出品数は記念展だった昨年に比べてやや少なくなったのが残念な点で、来年は、もっと多くの作品で会場を賑やかにしたいと思います。

30日(木)は、午後2時から会場でギャラリートークを行い、渡邊麗理事長代行、武富明子副理事長、諸留大穹専管理事、大作品品者の渡辺龍泉評議員、審査会員の山沖春蘭さんの5人の方々がそれぞれの作品にかけた思いを語りました。午後4時から、明治記念館に場所を移し祝賀会を開催し、皆でこの一年の活躍を期して交流を楽しみました。

(事務局)

書と私

テレビはどのチャンネルもコロナ、コロナ、コロナ……。感染源が不明、不安が不安を呼ぶ。トイレットペーパーが店頭から姿を消した。90%以上が国産で輸入は数%に過ぎないにもかかわらず、中国から輸入ができなくなるとのデマ情報が飛び交った。それでここまで混乱してしまう。口コミの恐ろしさ、風評被害は半端なコマーシャルより浸透力がある。真実を見極める力を持たなければ……。新型コロナウイルスの影響で学校は一斉休校、各種イベント等も休演、美術館は休館、書道会もご多分に洩れず書展の中止が相次いだ。丹精こめて制作した作品が日の目を見ないままお蔵入りとなってしまった。

こんな時こそ「書とは」と真剣に考えてみるよい機会である。今まで何気なく書に携わってきた。ただ好きなものを楽しんで書いてきただけである。書体や書風の変遷に特別注意を払ってきた訳ではない。一般的な解説書を流し読みしただけで解ったような気になっていた。恥ずかしい限りである。甲骨文字等の古代文字から金文への変化の過程は漠然としていて、詳しくは理解していない。隸書から章草、草書、そして楷書や行書へと、このあたりになって僅かながら解りかけている程度である。

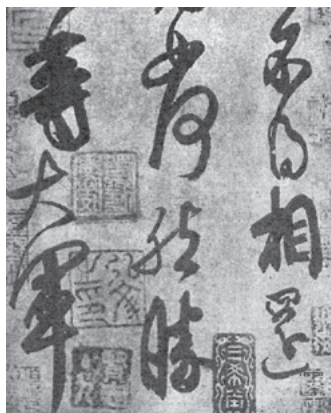
私の立ち位置

どちらかといえば古典がしっかりと存在する伝統書に身を置く方が安心感がある。中でも好みは行草書の世界である。初めて条幅に取り組んだ中学生の頃、王献之の中秋帖の一气呵成に書き流すリズムに圧倒された。その延長線上に

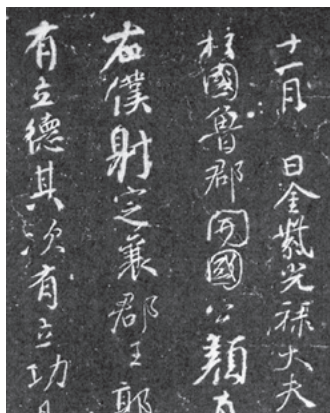
常任顧問
岩田 正直



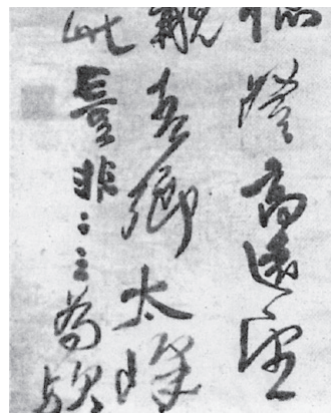
明清があった。また、顔真卿の争座位稿や祭姪稿の感情をむき出しにする作品にも戦きを感じた。冷静沈着な王羲之より、個性を強烈に押し出す作品に惹かれていった。そして時代は、机上で鑑賞する帖卷子から壁面に飾って楽しむ長条幅に移行した。じっくり読んで楽しむよりも、絵画的な視覚に訴える傾向が強くなってきた。美術館に似合う姿である。書に絵画性を取り込むならば、古典絶対主義の伝統書だけではなく、現代書にも目を向ける必要が出てくる。自分自身は漠然と伝統書らしきものを書いているだけで、現代書についてはあまり勉強していない。特に前衛書については知らないことが多すぎる。今後どのような方向に進むのか？興味は尽きない。ちなみに伝統書も古文まで遡れば象形文字、図章文字あたりに辿りつく。絵画との接点もあろう。難しく考えずに、楽しめる作品であればそれでよい。今後どんな作品が出現するか分からない。作品の良し悪しは別として新しい芽は摘み取ってしまわないことだ。自然淘汰の末、100年200年後に評価される時が来るかもしれない。否定することより可能性にかけてみたい。少し乱暴かもしれないが、産経が「国際」を冠せているならば、漢字文化圏ばかりに捉われる必要はない—書的な匂いさえあるならば。



中秋帖(部分) 王献之



争座位稿(部分) 顔真卿



遊中篋語(部分) 王鐸

「第37回産経国際書展」特別色紙展の募集

この特別色紙展は第21回産経国際書展からはじまり今回で12回目となります。
高円宮妃久子殿下から、いつまでも無理なく書に楽しく取り組んでいただけるようにという思いで、
毎回御題を下賜していただいております。

下記の要領にて実施いたしますので、資格のある先生方は奮ってご出品ください。

記

御 題 「躍」あるいは「慶」 どちらかを選んでください。
展示場所 東京都美術館ロビー階(予定)
期 間 令和2年7月27日(月) ～ 8月2日(日)
作品体裁 色紙(273mm×243mm) ※数ミリの誤差はかまいません。
出 品 料 無料
出品資格 80才以上の会員。但し本展出品者に限ります。
※会友以上、昭和15年以前(15年生まれは含む)に生まれた先生
締 切 令和2年6月5日(金) 必着
応 募 作品に下記出品票を添えて、搬入先まで直接お申し込み下さい。
搬 入 先 藤和額装(株) 〒234-0054神奈川県横浜市港南区港南台7-51-12
T E L 045-833-5273 F A X 045-833-5275

◎応募いただいた作品は全て額装して東京本展に展示します(額装代は書会負担)。

◎各地方展へは当該地方在住者の作品を展示します。

◎作品は展覧会図録に掲載します。

◎作品は展覧会終了後、額装のままご返却いたします。

【問合せ】産経国際書会事務局 T E L 03-3275-8902 F A X 03-3275-8974

第37回産経国際書展・2020産経ジュニア書道コンクール イベント紹介

第37回産経国際書展

■ギャラリートーク

7月27日(月) 13:00～14:00

高円宮賞、内閣総理大臣賞、会長賞など上位特別
賞受賞者による自作の解説

7月28日(火) 13:00～13:30

作品解説(書の鑑賞法)／高橋照弘

日本書道専門学校校長(産経国際書会副理事長)

7月31日(金) 13:00～13:30

作品解説(書の鑑賞法)／松崎龍翠

煌心書道会会長(産経国際書会副理事長)

8月2日(日) 13:00～13:30

作品解説(書の鑑賞法)／鈴木暁昇

東西書芸会会長(産経国際書会理事)

■ワークショップ

7月27日(月) 14:30～16:30

8月1日(火) 13:30～15:30

筆と墨を用いて半紙、はがき、うちわなどに参加
者が文字を書くという体験ができます。講師、担
当者はお手本を書いたり、参加者の指導をします。

■揮毫会

8月1日(土) 11:00～12:30

高円宮賞、内閣総理大臣賞、中国大使館文化部賞、
韓国文化院長賞受賞者から2人が模範揮毫を行
います。

2020産経ジュニア書道コンクール

■ワークショップ

7月27日(月)、28日(火)、29日(水)、8月1日(土)

10:00～11:30、13:30～15:30

8月2日(日) 10:00～11:30

本展同様に、半紙、はがき、うちわなどに参加
者が文字を書くという体験ができます。講師、担
当者はお手本を書いたり、参加者の指導をします。

夏期研修会

日時 8月15日(土)、16日(日)
場所 大手町サンケイプラザ 4Fホール

今年の研修は「臨書」第2弾！ 8月15、16日に東京で

夏期研修会2ケ年計画の実技講習「臨書」は令和元年に「王羲之書法を中心とした中国古典法帖」を取り上げ、臨書学習の重要性の認識、新たな視点の発見等参加者に好評を得て終了しました。昨年8月17日(土)は、高橋照弘副理事長が楷書「九成宮」、青陽如雲常任顧問が隷書「曹全碑」を、18日(日)は、松崎龍翠副理事長が行書「蘭亭序」、風岡五城理事長が草書「書譜」を担当し、多くの受講者から喜ばれました。

令和2年度は「王羲之書法日本古典法帖への展開」として引き続き、実技講習「臨書」を実施し2ケ年の総括としたいと思います。

臨書学習の要諦は系統だて順序だて進めることが最も肝要であり、書表現の多様性を習得し、自作表現へ展開させる書人の主体的志向は分野を問わず伝統として普遍的に受容されているところです。

昨年に引き続き、ご参加いただき、ご自身の書法・技法の向上にお役立ていただきますようご案内いたします。



昨年の研修会から

内容

令和2年		1日目 8月15日(土)	2日目 8月16日(日)
	午前	伝統書法への回帰 草書 松翁 臨「那子愿千字文」 高橋照弘 副理事長	日本的書道の萌芽 行書 空海「風信帖」 松崎龍翠 副理事長
	午後	王羲之書法の摂取 楷書 光明皇后「楽毅論」 町山一祥 常務理事	天真流露の隷書の世界 隷書 「漢簡」 風岡五城 理事長

【会場】大手町サンケイホール(東京都千代田区大手町1-7-2)

【日時】8月15日(土)、16日(日) 午前10時～午後4時30分

【受講料】全日(2日間)3,000円、但し1日のみ受講は2,000円

【締切・定員】100人先着で7月10日申込み締切

【申し込み】申込書に必要事項(氏名、住所、連絡先、参加日)をご記入の上、産経国際書会事務局あてに郵送、FAX、またはemail: shokai@sankei.co.jpでお申し込みください。事務局で確認次第、「受講票」と「郵便振替用紙」を郵送いたします。郵便局より受講料及びその他費用などを講習日までにお振り込み願います。

※申込書は事務局にご請求ください。または書会HPよりダウンロード願います。

現在、新型コロナウイルス感染拡大の影響で様々なイベントが中止となっています。本研修会につきましても、今後中止となることもありますので、ご了承の上お申し込みください。

書 展 ト ピ ッ ク ス

第35回記念景雲社「絆」書道展

勝田晃拓

●会期 2月10日(月)～16日(日) ●会場 クリエイト浜松ギャラリー31

昭和・平成・令和と繋いだ35回記念展は、5年ぶりに“やらまいか!”の浜松大舞台。母体の東海書道会創立40周年特別企画でもあり“どうせやるなら見せなきゃ損、尊”と気合十分。大作から色紙迄、ジャンルも豊富な80余点。厳寒時期だが春の陽気も味方して長時間・再来・増殖の観覧者で連日盛況。恒例特設展も話題「ONETEAM」が好評。結論…コロナ禍に負けずやってよかった!



“書”で奏でるハーモニー 三人展

長尾佳風

●会期 3月20日(金)～22日(日) ●会場 ギャラリー紅中(京都)



何度も協議して「今しかない」と決断しての開催。来場者337名。感謝しかありません。どなたからも「いろんな作品が見られて楽しい」と笑顔をいただくことができました。

漢字(長尾佳風)・仮名(加藤竹藜)・現代書(山口了世)のハーモニー、お互い得意分野のみを演じ、他分野へ踏み込まなかったことが成功の要因だったと改めて感じております。ありがとうございました。

創立65周年記念高知県書芸院展

岡林御舟

●会期 4月3日(金)～4月8日(水) ●会場 高新画廊

昭和30年2月高知県書芸院が発足いたしまして、65年の歳月が流れました。県内外の皆様方からのご支援とご指導に感謝申し上げます。高知県書芸院は創立以来「書道芸術の振興に寄与する」を理念として研鑽を重ねつつ、微力ながら書芸活動に参画してまいりました。深遠な書の道を目指して今後も努力を重ねて参る所存でございます。



来年、令和3年1月の第37回新春展、大作を募集!

産経新春展の“顔”として定着してきた大作。

産経国際書会を代表する力溢れる大作の募集を行います。出品資格を満たせばどなたでも出品は可能ですが、大作は産経国際書会全体の力量が問われます。自薦、他薦ともに下見会を行います。

応募締切 8月7日(金)

応募数 5点(最大7点まで)

下見日 9月17日(木) 予定

寸法 4×4m以内

※下見会では、作品に関してアドバイスをを行い、時には書き直しなどをお願いする場合があります。作品は審査日までに表具店へ搬入願います。

応募は書会事務局までご連絡ください。出品料は5万円、表具代を1点10万円まで補助します。但し、6点の場合は8万円、7点の場合は7万円までとします。

アラカルト

「日本の書200人選～東京2020大会の開催を記念して～」会期変更

新型コロナウイルス感染拡大防止のため展覧会の会期が変更になりました。6月11日(木)から6月21日(日)まで、東京・六本木の国立新美術館で開催します。16日(火)は休館です。但し、デモンストレーション、ワークショップは中止です。入場料は大人1,000円、学生500円、高校生以下無料。詳細は、<http://shobi.or.jp/sho200/>へ。

なお、産経国際書会からは以下の21人の先生方の作品が展示されます。

齋藤香坡(最高顧問・第25回総理大臣賞)、佐々木月花(最高顧問・第22回高円宮賞)、田中鳳柳(最高顧問・第23回総理大臣賞)、村越龍川(最高顧問・第24回総理大臣賞)、生田博子(名誉顧問・第23回高円宮賞)、石川天瓦(名誉顧問・第28回高円宮賞)、竹澤玉鈴(名誉顧問・第29回高円宮賞)、手島泰六(名誉顧問・第26回高円宮賞)、平方峰壽(名誉顧問・第27回高円宮賞)、本多道子(名誉顧問・第24回高円宮賞)、山下海堂(名誉顧問・第30回高円宮賞)、今口鷺外(常任顧問・第31回総理大臣賞)、岩田正直(常任顧問・第31回高円宮賞)、島村谿堂(常任顧問・第30回総理大臣賞)、原田圭泉(常任顧問・第33回総理大臣賞)、加藤深流(顧問・第32回総理大臣賞)、風岡五城(理事長・第34回高円宮賞)、坂本香心(理事長代行・第35回高円宮賞)、高橋照弘(副理事長・平成30年度文化庁長官表彰)、多田游硯(常務理事・第33回高円宮賞)、故・伊藤欣石(元副会長・第32回高円宮賞) 計21人21作品(敬称略)

産経国際書会事務局では、若干の招待券を保管しています。必要な方は遠慮なくご連絡ください。

事務局

事務局ご挨拶

産経国際書会 前会長代行 福本 雅保

産経国際書会在勤中は、書会の皆様に本当にお世話になり、心より感謝しております。3年8か月の短い期間でしたが、日本文化を代表する書芸術の奥深さに接することができ、また皆様の書業を間近にみられたことは、私にとって生涯の財産となったと思っています。新任地のフジサンケイグループ事務局はグループの中核にあり、今後とも微力ながら書道振興に奮闘いたす覚悟です。今後とも変わらぬご指導ご厚誼のほどお願い申し上げます。



産経国際書会 事務局次長 山口 邦泰

このたび3月1日より産経国際書会の事務局次長に就任いたしました。平成10年に東京事業本部に籍を置いてから約22年、毎年「国際書展」「新春展」「ジュニア書道展」など書会の各式典で舞台進行を務めてまいりましたので、私の顔に覚えがある先生方もおられるのではと思う次第です。私自身、書の経験はありませんが、これからは各先生方にご指導いただきながら勉強をし、産経国際書会の発展に努めて参りますので、何卒よろしく願います。



各会書展お知らせ(産経新聞社後援)

〈令和2年5月~10月〉 ①会期 ②会場 ③代表名

6月

2020臨泉会選抜小品展

- ①6月16日(火)~6月21日(日)
- ②銀座鳩居堂画廊4階
- ③臨泉会・佐々木月花

7月

2020書をならふ展

- ①7月6日(月)~7月12日(日)
- ②Gallery 鶉(じゅん)
- ③浅香 秀子

第90回公募斯華会書道展

- ①7月10日(金)~7月12日(日)
- ②セントラルミュージアム銀座
- ③小野 之右

第45回梓書道会展

- ①7月11日(土)~7月12日(日)
- ②タワーホール船堀
- ③市原 蘇水

8月

音羽書アートⅪ展

- ①8月10日(月)~8月12日(水)
- ②文京ギャラリーシビック
- ③諸留 大穹

第43回墨晨書展 墨の祭り

- ①8月12日(水)~8月17日(月)
- ②埼玉会館
- ③岩田 正直

書人クラブ展

- ①8月21日(金)~8月23日(日)
- ②にいざほっとプラザ
- ③岩村 恵雲

9月

第37回日本総合書作院展

- ①9月8日(火)~9月13日(日)
- ②大阪市立美術館
- ③篠原 秀朋

小川艸岑・小宮求菫二人展 「墨色のImpression」

- ①9月8日(火)~9月13日(日)
- ②銀座鳩居堂画廊4階
- ③小川 艸岑

第6回方琥書院書画展

- ①9月24日(木)~9月29日(火)
- ②茨木市立ギャラリー
- ③久田 方琥

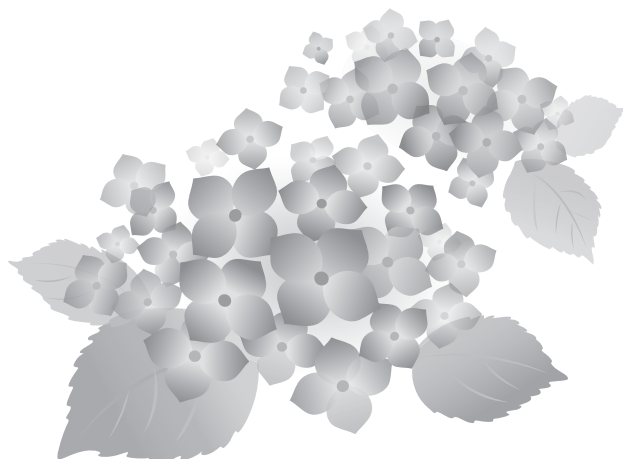
10月

第34回世界平和交流書画作品展

- ①10月7日(水)~10月12日(月)
- ②仁寺(いんさ)アートギャラリー(韓国・ソウル)
- ③鎌田 悠紀子

第52回一煌会書展

- ①10月16日(金)~10月18日(日)
- ②銀座洋協ホール
- ③石川 天瓦



※情報は令和2年4月30日現在のものです。新型コロナウイルス感染拡大のため延期、中止の場合があります。ご了承ください。

追 悼

次の先生が黄泉につかれました。
本会での活躍とご指導ご鞭撻を賜りましたことに厚く御礼申し上げますとともに、
心よりご冥福をお祈り申し上げます。合掌。(敬称略)

無 鑑 査 黒田幸子(令和2年3月)

編集後記

風薫る新緑の候。日本の四季の中で、もっとも活力に富んだ美しい季節であるはずが、
コロナ騒動で世界中が何とも暗いニュースの毎日です。

オリンピックの延期と共に書会も始まって以来の総会中止となり、いつ終るか先の見
えない不安が日に日に高まります。

このような事態になることなど誰が想像したでしょう。新春展も皆新しい門出を祝い、
希望に満ちてテープカットに臨まれました。5名の先生方によるギャラリートークも作
品を通して制作に対する熱い思いが伝わり、実際に使った筆で作品を説明されたり、墨
色の变化等細かく解説して下さったことはとても勉強になり、ギャラリーも興味津々
でした。

そして、良い時期に35周年記念展、台北交流展が開催されたことは幸運なことでした。

難題を乗り越えて「平和な祭典」の実現と「令(うるわ)しい平和」となりますよう祈念
するばかりです。

(小川 艸岑)

(会報編集委員／高頭子翠、小川艸岑、影山瑤琴、早坂喜伊、渡邊麻衣子)

編集・発行 令和2年5月号

〒100-8079 東京都千代田区大手町1-7-2

産経新聞社事業本部内

産経国際書会事務局

TEL:03(3275)8902 FAX:03(3275)8974

<http://sankei-shokai.jp/>

<https://www.facebook.com/sankeishokai>

お願い

会員の皆様に住所・電話番号等
の変更があった場合には事務局
までご連絡くださいますよう、また、
各会書展のお知らせは早めにお
願い致します。